

第2章 千葉県の文化芸術を取り巻く現状と課題

1 文化芸術を取り巻く諸情勢の変化

地域社会においては、少子高齢化、核家族化、単身世帯の増加等の影響により、地域コミュニティの衰退や文化芸術の担い手不足が課題となっています。

一方、東日本大震災を契機に、文化芸術が心の支えとなり、また地域コミュニティ再生のきっかけとなったことで、文化芸術の果たす役割の重要性が再認識されました。

そして今、文化芸術は地域の文化資源として、県民の千葉アイデンティティを醸成するとともに、観光振興や地域活性化に活用し、文化芸術を起爆剤とする地方創生の実現を図ることが期待されています。

また、国の文化施策の動向として次のようなものが挙げられます。

(1) 劇場、音楽堂等の活性化に関する法律

平成24年6月に施行された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」は、劇場、音楽堂等の活性化を通じて、実演芸術の振興を図り、もって心豊かな国民生活及び活力ある地域社会の実現並びに国際社会の調和ある発展に寄与することを目的に制定されました。この法律の施行により、文化発信拠点としての文化施設の機能の一層の充実が求められるとともに、地方公共団体の役割として、地域の特性に応じた施策の策定や劇場等の積極的な活用に取り組むことが明確化されました。

(2) 文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次基本方針)

平成27年5月に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次基本方針)」には、我が国が目指す文化芸術立国の姿として、あらゆる人々が様々な場で創作活動への参加、鑑賞体験ができる機会の提供や、東京2020大会を契機とする文化プログラムの全国展開などが示され、文化芸術を創造し、支える人材の充実及び子どもや若者を対象とした文化芸術振興施策の充実や、文化芸術の次世代への確実な継承、地域振興等への活用などの重点戦略が盛り込まれました。

(3) 文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想

オリンピック憲章において、スポーツと文化の融合がうたわれていることから、近年のオリンピックでは、「スポーツと文化の祭典」として、「文化プログラム」が実施され、その規模・質は長期化・大規模化しています。

平成27年7月に発表された「文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想」では、東京2020大会において、国は史上最大規模の文化プログラムを実施することとしており、東京2020大会を契機とした文化芸術立国の実現に向けた基本構想が示されました。

2 本県における状況

(1) 前計画における取組及び課題

前計画では、「ちば文化」に親しむ環境をつくり、「ちば文化」を創造し発展させることのできる体制を構築し、「ちば文化」を地域活性化に生かすために、以下の5つの施策の方向(柱)のもと、様々な施策の展開や取組を行い、その進捗状況は、「県総合計画」の政策評価制度により評価し、公表を行ってきました。また、県民の文化芸術活動の状況については、「県政に関する世論調査」などを通して、意識調査を行いました。

前計画の5つの施策の柱

- 1 文化芸術活動を支えるための仕組みづくり
- 2 文化にふれ親しむ環境づくり
- 3 文化資源を活用した地域の活性化
- 4 伝統文化の保存・継承
- 5 「ちば文化」の魅力発信

前計画の指標

前計画で掲げた指標は、次のとおりの結果となっています。

指標	現状 (平成22年度)	平成27年度 (上段:目標) (下段:結果)
芸術や文化に親しむ機会に満足している 県民の割合	23.1%	28.0% 24.2%

平成22年度以降、芸術や文化に親しむ機会に満足している県民の割合は、23%前後でほぼ横ばいとなっています。

本指標は、世論調査の結果ではありませんが、同調査の回答のうち「どちらともいえない」「わからない」割合は例年50%を超えています。このことは、明確な判断がしづらい質問と受け止められている可能性があると思われます。

5つの施策の柱での取組と成果は次のとおりです。

【1 文化芸術活動を支えるための仕組みづくり】

県民の自主的な文化芸術活動を促進するため、文化芸術団体との共催による千葉・県民芸術祭などを開催し、県民自らが主体的に文化芸術活動ができるような機会づくりや情報提供に取り組んできました。

指標名	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
「千葉・県民芸術祭」参加 人数	70,347 人	74,357 人	72,761 人	42,705 人	39,402 人
芸術文化団体加盟者数	127,915 人	113,100 人	116,280 人	117,269 人	115,517 人

県立美術館の改修工事に伴う休館による会場規模の縮小等の影響で、平成 25・26 年度の参加者数は例年より減少しています。

千葉県芸術文化団体協議会に加盟する団体の総加盟者数。

「千葉・県民芸術祭」の参加者数は概ね横ばいですが、県民の文化芸術活動の動向を計るには、もっと県民に身近である市町村で実施する文化祭の状況等も視野に入れ、広く県民が文化芸術に接する機会を充実させていくことが必要です。

また、「千葉・県民芸術祭」に参加する文化芸術団体では、平均年齢が 60 歳以上の団体が平成 22 年度は 39%だったのに対し、平成 27 年度は 59%となり、高齢化が課題となっています。今後、さらに高齢化や会員数の減少が予想されることから、対応が求められます。

一方、県内各地で若い世代の多様な創造活動が発信されており、既存の文化芸術の分野に縛られない文化芸術活動が活発になっています。多様化する文化芸術活動に対して、分野にとらわれず、活動をサポートする仕組みなど、多様な創造活動をいかに地域に引き込むかを検討していくことも、「ちば文化」の推進に必要となります。

このように、文化芸術活動を支える仕組みも多様化することから、関係団体や国・市町村などとの一層の連携を強化し、文化芸術活動を支えていく体制づくりが必要です。

また、文化振興のための体制の整備として、多様な創造活動に対応できるような文化施設の機能充実が必要となってきます。

千葉・県民芸術祭：文化芸術団体と県との共催で、毎年秋を中心に、音楽・舞踊・演劇などの舞台公演、写真・美術などの展覧会、文芸大会など約 30 行事を実施しています。

千葉県芸術文化団体協議会：昭和 45 年、県下の芸術文化団体相互の理解を深めるとともに、県の芸術文化の振興に期することを目的に設置された団体で、県域芸術文化団体と市町村文化団体で構成されています。

【2 文化にふれ親しむ環境づくり】

多くの県民が、優れた文化芸術を鑑賞できる機会を充実させるため、芸術家や文化芸術団体と連携して、県立文化施設において質の高い演奏会や展覧会等を実施しました。

指標名	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
県立文化会館の入場者数	736,404 人	788,974 人	779,990 人	840,078 人	839,938 人
美術館・博物館入場者数	970,702 人	1,108,833 人	1,069,164 人	892,704 人	909,876 人
「学校における芸術鑑賞事業」「県民芸術劇場公演事業」の開催件数	92件	92件	92件	91件	92件

県立美術館の改修工事に伴う休館の影響で、平成 25・26 年度の入場者数は例年より減少しています。

県立文化会館の入場者数は、平成 22 年度が約 74 万人であったのに対して、平成 26 年度は 84 万人と増加傾向です。県立美術館・博物館の入場者は、平成 25・26 年度は県立美術館の改修工事による休館期間があり、90 万人前後でしたが、それ以外の期間の年間入場者数は 100 万人程度と概ね横ばいとなっています。県内には、市町村立や私立の文化施設も多数あり、それら各文化施設との連携を図りながら文化芸術振興を図っていく必要があります。

文化事業としては、「学校における芸術鑑賞事業」、「県民芸術劇場公演事業」の開催により質の高い文化にふれる機会を県民に提供しました。年間 100 回近い公演を開催することにより、県民、児童生徒にオーケストラの生の演奏に触れる機会を提供することができました。

今後も、広く県民に文化にふれ親しむ機会を提供するためにも、継続して演奏会や展覧会等の実施が必要です。

学校における芸術鑑賞事業：県唯一のプロオーケストラであるニューフィルハーモニーオーケストラ千葉により、小・中・高等学校及び特別支援学校での音楽鑑賞教室を実施しています。

県民芸術劇場：市町村等と県との共催で、県内各地でニューフィルハーモニーオーケストラ千葉によるコンサートを開催しています。

【3 文化資源を活用した地域の活性化】

歴史的建造物・史跡や、祭り・郷土食等の文化資源の魅力をより多くの人々に知ってもらい、地域の文化資源をまちづくりや観光振興に活用するための取組として、文化資源に関する情報発信や、「文化財探検隊事業」、「文化資源活用啓発事業」などを実施しました。

指標名	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
「ちばの文化資源情報」の提供件数			3,483 件	3,486 件	3,694 件
文化財探検隊の実施回数	3回	3回	3回	3回	2回

県内の文化資源の情報に関して、県ホームページにおいて「ちば文化交流ボックス」のサイトの中で、文化遺産や民話など「ちばの文化資源情報」を発信していますが、より多くの情報を発信するため、よりきめ細かい情報収集及び提供を継続して行う必要があります。

「文化財探検隊事業」では、参加希望者が多く、地域の文化財に対する関心を持つ人が増え、文化財保護の意識が広がっています。また、地域の文化資源をまちづくりや観光振興に活用するための取組として実施した「文化資源活用啓発事業」では、地域の伝統芸能や歴史的遺産のほか、食や遊びに関する文化資源の紹介も行い、地域の文化資源の魅力を再認識する機会を提供しました。

歴史的建造物・史跡や、祭り・郷土食等の文化資源を保存・継承するとともに、活用に関する情報発信や県内外の地域間交流を通じて、ちばの文化資源をまちづくりや観光振興に活用し、地域の活性化につなげる取組は引き続き必要です。

ちば文化交流ボックス：県民の多様な文化的ニーズに応え、幅広い文化情報の提供するため、県ホームページにおいて「ちば文化交流ボックス」を開設しています。

文化財探検隊：文化財をとおして郷土の自然と歴史、文化等に関して理解を深め、文化財保護の大切さを知るため、県内の文化財をめぐる見学会を実施しています。

【 4 伝統文化の保存・継承】

県内各地に伝えられてきた郷土芸能や伝統技術、我が国が世界に誇る伝統芸能等の伝統文化は、私たちの貴重な財産です。伝統芸能を体験したり、郷土芸能や伝統技術を公開する機会を設け、普及と担い手育成に努めました。

指標名	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
伝統芸能継承者育成事業の参加者数	497人	1,010人	280人	273人	118人
美術館・博物館における伝統文化体験事業の参加者数			1,370人	1,811人	1,888人
房総の郷土芸能の参加者数			819人	782人	939人

将来の千葉県を担う子どもたちに対し、伝統文化にふれる機会を提供し、将来に向けての保存・継承を図るため、「伝統芸能継承者育成事業」などを実施しました。参加体験と芸術鑑賞とを併せて行うことで、伝統文化をより親しみやすくし、理解を深める機会を提供することができました。

また、県立美術館・博物館では、県民に対し、伝統文化への関心を促し継承するために、実際にふれたり製作するなどの体験事業を実施しました。体験事業を行うことで、より関心が高まることから、引き続き内容を工夫しながら実施することが求められています。

毎年、実施している「房総の郷土芸能」では、地域の郷土芸能を広く公開することで、地域の民俗芸能についての理解を深める機会の提供とともに、参加団体における文化財の保存継承の意欲向上に貢献したと考えられます。

県民の財産である伝統文化を保存・継承していくため、伝統文化にふれる機会を提供するとともに、担い手を育成し、次世代へ継承していくことが必要です。

伝統芸能継承者育成事業：小・中・高校生を対象に、伝統文化の参加体験と参加者による成果発表とを併せて行う事業に対して助成します。

房総の郷土芸能：県内各地区を持ち回りで、各地に伝承されている獅子舞や神楽等の民俗芸能を公開します。

【5 「ちば文化」の魅力発信】

県内各地の様々な文化情報や県民の文化的ニーズを把握して積極的に情報提供を行いました。また、県民の千葉県に対する愛着や誇りをはぐくみ、県民のアイデンティティを醸成していく機会となる「県民の日」事業等を通じて、国内外に「ちば文化」の魅力を発信しました。

指標名	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
県民の日賛同行事の実施件数	314件	311件	310件	327件	337件
県民の日地域行事の実施件数		11件	11件	11件	11件
「ちば文化交流ボックス」へのアクセス件数	219,827件	64,141件	160,287件	194,348件	380,407件
デジタルミュージアムへのアクセス件数			37,349件	37,265件	41,620件
ふさの国文化財ナビゲーションシステムへのアクセス件数			14,749件	17,331件	20,500件

「県民の日」を記念して、より多くの県民が千葉の魅力を再発見し、ふるさと千葉への愛着を深めることができるよう、6月15日の「県民の日」を中心に、県、市町村及び各種団体等において県民参加型のイベントや施設の無料開放等を実施し、広く「ちば文化」の魅力を発信しました。

また、県の文化情報を発信する県ホームページ「ちば文化交流ボックス」や「デジタルミュージアム」、「ふさの国文化財ナビゲーションシステム」では、掲載する文化情報を順次、最新の情報に更新し、県民が必要な情報にアクセスしやすい環境を整えたことからアクセス件数が増加しました。

さらなる情報収集・提供に取り組むとともに、文化事業の実施などを通して、千葉の魅力を発信し続けていくことがより一層求められています。

「県民の日」事業：県民の日を記念して、6月15日を中心に様々なイベントや県内施設などの割引や無料開放を実施しています。

デジタルミュージアム：県立博物館が所蔵する資料をホームページで公開します。

ふさの国文化財ナビゲーションシステム：国・県指定文化財及び周知の埋蔵文化財包蔵地の地理情報をインターネット上で公開します。

(2) 県民の意識調査の結果

県民や文化芸術団体等を対象とした調査の結果は、次のとおりでした。

県民を対象とした調査「平成26年度第49回『県政に関する世論調査』」

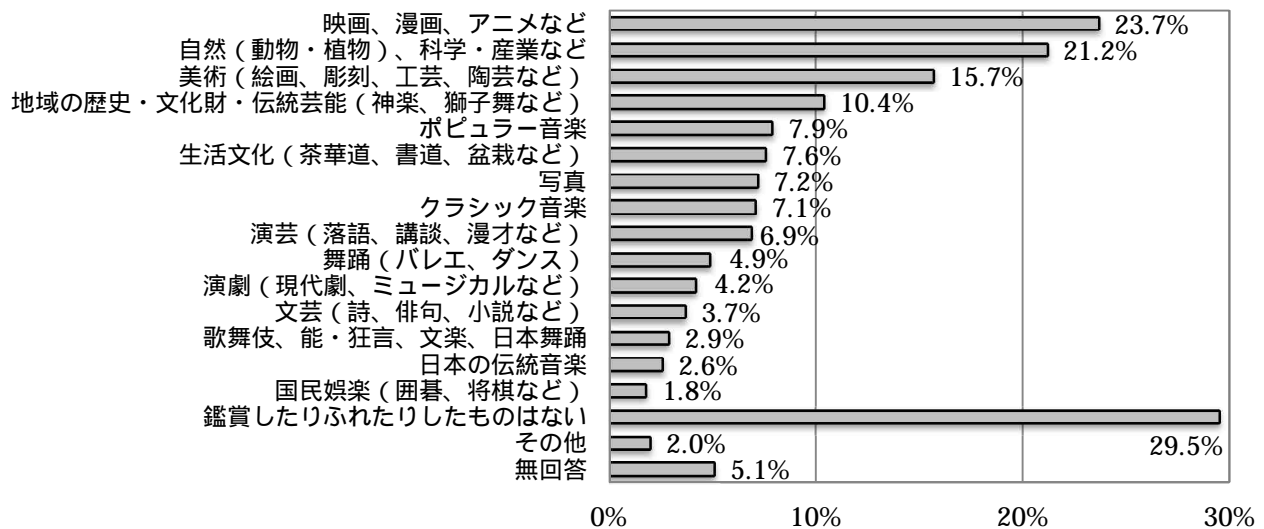
この1年間に県内でふれた文化芸術

1年間に県内でふれた文化芸術として、「映画、漫画、アニメなど」(23.7%)が2割台半ばで最も多く、以下、「自然(動物・植物)、科学・産業など」(21.2%)、「美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸など)」(15.7%)が続いています。

一方、「鑑賞したりふれたりしたものはなし」人も全体の約3割を占めています。

この1年間に芸術文化にふれた人の割合は、全体から「鑑賞したりふれたりしたものはなし」(29.5%)と無回答(5.1%)を差し引いた65.4%となります。

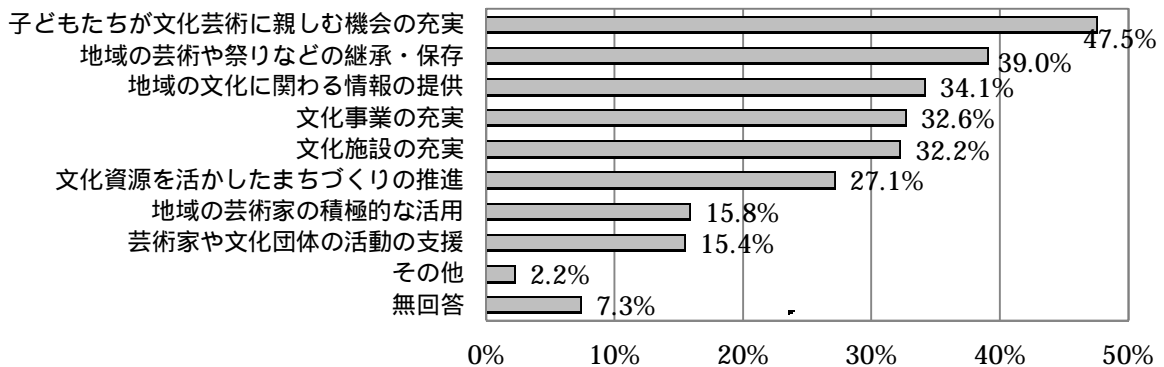
この1年間に県内でふれた文化芸術



地域の文化的環境に必要なこと

地域の文化的環境を満足できるものとするために必要なこととして、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」(47.5%)が約5割と最も多くあげられ、以下、「地域の芸術や祭りなどの継承・保存」(39.0%)、「地域の文化に関わる情報の提供」(34.1%)となっています。

地域の文化的環境に必要なこと



文化芸術団体等を対象とした調査「平成27年度『文化芸術活動に関する調査』」

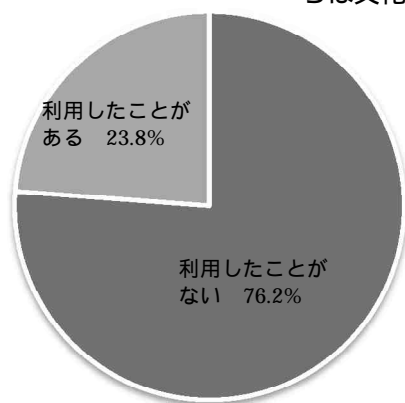
県ホームページ「ちば文化交流ボックス」の利用

地域の文化情報を提供・発信している県ホームページ「ちば文化交流ボックス」について、県域芸術文化団体に「利用したことがあるか」をたずねたところ、「利用したことがない」(76.2%)が約3/4を占めました。

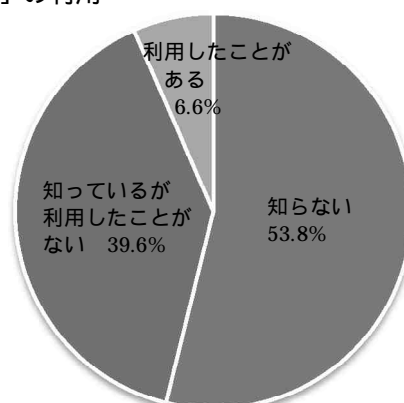
また、文化芸術活動を行うNPO法人からの回答では、同サイトを「知らない」(53.8%)が半数以上を占め、「利用したことがある」(6.6%)は1割弱でした。

より広く情報を発信するために、同サイトをはじめ、県ホームページや県刊行物等の様々な広報媒体を活用していく必要があります。

「ちば文化交流ボックス」の利用



(県域芸術文化団体の回答)



(文化芸術活動を行うNPO法人の回答)

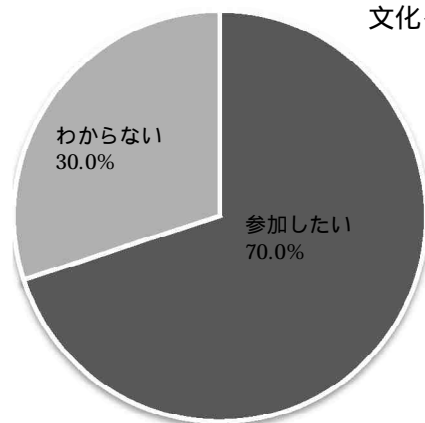
東京2020大会の文化イベントへの参加

東京2020大会の文化イベントへの参加についてたずねたところ、県域芸術文化団体からの回答は、「参加したい」(70%)、「わからない」(30%)でした。

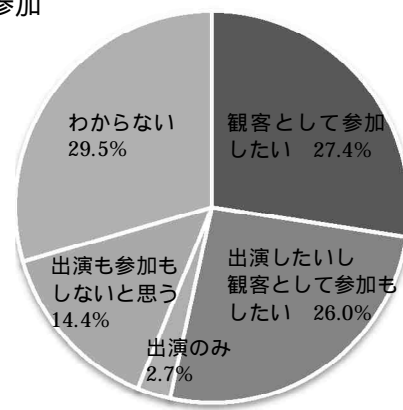
また、文化芸術活動を行うNPO法人からの回答では、「観客として参加したい」(27.4%)、「出演したいし、観客として参加もしたい」(26.0%)、「出演のみ」(2.7%)の合計が全体の半数以上を占めました。

東京2020大会の文化イベントを実施するにあたり、あらゆる人々が観客として、また文化の担い手として参加・交流できるような機会の創出が求められています。

文化イベントへの参加



(県域芸術文化団体の回答)



(文化芸術活動を行うNPO法人の回答)